



「欲しいものを買ってあげればいくら金があっても足りない。要るものを買ってあげれば少しの金でも余裕ができる」
〔荒丁寛「いい加減を知る」より〕

本当に必要な物を買って、それを大切にしていこう。古き良き時代の生き方には学ばなければならないところがあります。食べ物に貧しかった時代、親はいろいろな工夫し、愛情を込めて食事を用意しました。それを家族みんなで上手に分け合いました。親は自分の分を子に与え、子はそれを感謝して食べました。その中から我慢、優しさ、思いやりなど様々なことを自然と学んできました。裕福でなくても幸せな家族団らんのひとつでした。

時が流れて少子化、豊食の時代になりました。様々な物に満ちあふれる中、それでもなお、人は次から次へと新しい物（つまり「欲しいもの」）を求めています。そんな日々の中で、大事なことを学べるチャンスをなくしてしまいました。

以前ある講演会で「お菓子がなくなっただ」という話を聞きました。A君は一人っ子。ある日、友だちが遊びに来まし

た。お母さんがテーブルの上にお菓子を出してくれました。ゲームに夢中だったA君がお菓子の手をのびしたところ、そこにあつたはずのお菓子がなくなっていました。驚いたA君がお母さんにそのことを話しました。実際は友だちが食べただけのことですが、A君にはテーブルの上のお菓子がなくなるという経験がなかったので、驚いてしまいました。お菓子は自分が食べない限りなくならないのです。

A君には大事なことを学ぶ場面を作らなければなりません。兄弟が少なくなった今、時には親が兄弟の役を演じるのです。お菓子がいつでもそこにあるのではなく、時にはお菓子を取り合うことも必要になってきます。

「最近の子どもは・・・」、「子どもが変わった」などとよく言われます。しかし、千年昔の世でも同じ事は言われていたはずで、人はそういういつ時代を経てきたのです。大事なものは、その時代の中でどう子どもを育てていくか、その時代にあつた子育てをどうしていくかということなのです。これからは親が親であると同時に兄弟でもあるのです。そんな中で親子のきずなを深めていく必要があります。

食えることは生きることです。動物の命を頂いたことによって、次の食事で生きられるのです。この感謝の気持ちで生きていきたい。食えることの原点を見直し、「命」の大切さをわかってもらえたらと思います。

伝言板

富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)

小児慢性特定疾患治療 研究事業による医療費の助成

この事業は、長期にわたり療養を必要とする慢性的な病気に対し、その治療方法の研究と患者さんの医療費の軽減を図るものです。

○対象者

次の該当疾患および該当治療を行っている山梨県内に居住する18歳未満の児童

○該当疾患

悪性新生物、慢性腎疾患、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、内分泌疾患、膠原病、糖尿病、先天性代謝異常、血友病等血液・免疫疾患、神経・筋疾患、慢性消化器疾患

○助成額

生計中心者の所得に応じて自己負担限度額が決まります。

○手続き

新規 随時

更新 現在、医療受診券をお持ちの方も年一回の更新手続きが必要になります。個別に通知をいたしますので、主治医とご相談のうえ、更新手続きを行ってください。

問合せ 健康支援課

☎ 0555(24)9034

障害者のみなさんが 早期避難するために

災害の危険が迫ったとき、最初に避難準備情報が出されます。これは、一人で避難することが困難な人が避難を始めるためのお知らせとなり、伝達方法は防災無線による放送となります。

では、早期避難にあたり見落とされる点をいくつかあげてみましょう。

第一に、避難準備情報はサイレンが鳴らず内容を直接放送する場合がありますので、断続的な雨音やテレビを見ていて聴き逃す可能性があります。

第二に、放送を聞いたとしても自力で避難が困難な人は、近隣に支援者がいなければ避難が容易ではありません。

第三に、あわてて避難したために薬や生活用具を忘れた場合は、取りに戻らなければなりません。

このようなことにならないように、障害者の方の状況については前もってお伺いし、対応策を立てておく必要があります。

個人情報提供には不安があるとは思いますが、市町村が取り組んでいる対象者の把握や支援者に協力を求める避難対策にご理解とご協力をお願いします。